まちかど ネットワーク

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域の話題をお届けしています。
広報広聴課☎55－2700へご連絡ください。

ひと

陸上200メートル走で
県小学生新記録を樹立した

内藤 牧人（まきと）さん

（吉原小学校６年・吉原２）

＋月十二日、第三十二回県小学生陸上選手権大会が県営草薙陸上競技場で開かれ、小学五・六年男子二百メートルで、富士陸上教室所属の内藤牧人さんが予選で二十五秒一三、決勝でも二十五秒二一の県小学生新記録で優勝しました。この記録は、これまでの記録を〇・八九秒も更新する快挙。小学生離れした見事な加速で、ほかの選手を圧倒しました。また、同大会の四百メートルリレーでは、アンカーを務めて優勝し二冠を達成しました。

内藤さんは富士陸上教室で週三回練習し、冬場には長距離走でスタミナを強化してきました。夏の全国大会では、四百メートルリレーで全国三位に入賞する原動力に。今大会の個人種目では、初挑戦の二百メートルに絞っての出場でしたが、「新記録を出そうと初めからねらっていました」と意欲を持って臨みました。

「小学二年生から陸上を始め、三年生のとき県大会の百メートルで二位になり、陸上に興味を持ちました」という内藤さんは、小学四年生以降、県内の同学年相手に百メートルで負けなし。しかし、ことしの五月ごろから約二か月間、成長からくる足の痛みで、全く走れず苦しい思いをしました。それだけに、「リレーでの全国三位や今回の結果はとてもうれしいです」と顔がほころびます。

百メートルでも県小学生記録にあとわずかに迫る十二秒四八の自己ベストを持つ内藤さんは、「早く百メートルで十一秒台を出したいです。中学校では陸上部に入り、全国で活躍する選手を目指して頑張ります」と今後の目標を語ってくれました。

▲新記録を出した200メートルでの走り

ズーム アップ ふじ

露地物の秋菊の切り花が出荷の最盛期に

古くから日本人になじみ深く、全国で最も生産の多い花となっている菊。富士市でも菊の栽培が盛んに行われているのを皆さんはご存じですか。富士市の菊は、昭和の初期にキュウリの後作として取り入れられたのが始まりと言われ、浜松市や湖西市などとともに県内の主要産地になっています。市内の産地は主に元吉原や田子浦地区などの市南部で、平成十三年の生産量は約四百七十万本。夜間に光を当てて栽培する電照栽培に取り組み、東京など首都圏を中心に出荷されています。

菊の栽培は一年中出荷が可能なハウスがメーンですが、菊の自然開花期は秋で、九月から十一月にかけて露地物の菊が出荷の時期を迎えます。

栽培歴三十年以上のベテランで、富士市農協の菊部会長を務める渡辺光司（こうじ）さん（今宮）は、「市内には菊を専業で栽培をしている家が多くあります。愛知県や九州などの大産地が白い菊を中心に出荷していますので、黄色の菊の出荷割合が高くなっています。菊は日照時間によって成長が左右される植物です。ハウスでは電照時間を微妙に調整して需要の多い時期に合うよう育てています。経験と勘が物を言うところですね。露地物では病害虫がつきやすいので神経を使います。一本に一つの大きな花を咲かせるため、途中で芽を摘む作業は手間がかかりますが、花や葉の色など満足のいくできになるとうれしいですね」と話してくれました。

▲畑で菊の様子をうかがう渡辺光司さん、邦子さんご夫妻

▲菊の出荷の最盛期は、仏事の多いお盆や暮れ、春と秋の彼岸